

平成 19 年 4 月 1 日

審判レポート

佐賀県ミニバスケットボール連盟審判部
中島秀樹

- 大会名 : 第38回全国ミニバスケットボール大会
- 期 日 : 平成19年3月27日(火)～30日(金)
- 会 場 : 千葉ポートアリーナ、千葉県総合スポーツセンター、船橋アリーナ

[今大会への意気込み]

今年で4年連続5回目(審判3回、チーム2回)の参加となり、いろんな経験や交流を重ねて臨んだ今大会では、今年こそ準決勝以上の割り当てをいただいて、そしてきちんとこなすことを目標とし、さらに今夏開催される佐賀インターハイに向けてのいいステップにしたいと思って参加させていただきました。

[3日間の内容]

- ① 3月28日(水) 千葉ポートアリーナ Bコート第2試合 女子予選リーグ
安詳(京都) 10 対 44 下妻MBC(茨城)
主審:中島(佐賀)、副審:小竹原(福井)、主任:藤井(徳島)

主任の方からも特に指摘されるようなこともなく、自分でも納得できた内容だったと思います。特にディフェンスの悪い手の整理が出来ていたのかなと思いました。もう緊張することなくなっていて、今までよりも全体が見えたような感じがしました。相手審判が若く公認2年目だったので、ミーティングはそちらの方を重点的に話が進みました。

- ② 3月29日(木) 千葉県総合スポーツセンター Eコート第5試合 男子準決勝
佐野スポーツ少年団(栃木) 41 対 48 駒形田町(静岡)
主審:布橋(富山県ミニ審判長)、副審:中島(佐賀)、主任:八矢(委員会)

今大会は会場や日程の都合で変則の審判割で、準決勝以上の割り当てが最初から決まっており、私は最初から準決勝の割り当てをいただきました。今回の目標として準決勝を吹くんだと意気込んでいたのでちょっと拍子抜けしましたが、でもとりあえずの目標はクリアしたのであとは自分の精一杯の力を発揮しようと落ち着くことが出来ました。

相手審判は、偶然にも昨夏審判長講習会の時に一緒にさせていただいた方で、すんなりとコミュニケーションがとれ、午前中も一緒に栃木のゲームを観戦したりしてチームの特徴などを確認しました。ゲーム前のプレカンでも、3～4のエリアへの受け渡しのタイミングや能力のあるビッグマン同士のプレイの見極めなど、このゲームのポイントを2人で確認しました。ブロック準決勝ということもありレベルも高く、しかもシーソーゲームとなりましたが、終始集中して取り組みことが出来ました。

ミーティングの時は、ケースなどの話題はなかったのですがただ1つ、プレイを再開させる時にボールをプレイヤーに渡す姿が事務的に見えると指摘されました。全国大会という舞台上でプレイヤーたちが気持ちよくスローインやフリースローが出来るように気配りをしてあげることも大事なことであったということです。たしかに男子準決勝ということで気合いも入り全体的な余裕がなかったと思います。さらに完璧なゲーム管理を目指すためにも心がけるようにしていきたいです。

- ③ 3月30日(金) 千葉ポートアリーナ Cコート第1試合
女子決勝 川口じりん(埼玉) 42 対 46 平郡ミニバスクラブ(奈良)
主審:中島(佐賀)、副審:鈴木(北海道)、主任:篠田(委員会)

目標にしていた準決勝の割り当てをいただいたのもう最終日はないと思っていたので、まさか自分が決勝のしかも主審を任されるなんて、名前を呼ばれたときは思わず返事をするのが遅れたくらい自分でも驚きました。いきなりだったので最初不安もありましたが、せっかくのこのチャンスを無駄にせず、しっかりと自分をアピールしようと気持ちを切り替えることが出来ました。

プレカンでは、相手審判が公認2年目でかなり緊張されていたので、子供たちのためにお互い精一杯がんばっていいゲームにしようと、技術より気持ちの面での話が多かったです。

全国大会の決勝主審ということでやはり緊張しましたが、トスアップをすると自然と落ち着いてゲームに入ることが出来ましたが、いくつか反省点がありました。悪い手のファウルを結構早めに取り替えて自分でも良い感じで笛を吹けているかなと思っていたのですが、ミーティング時に元2Aの中山氏から、「もう少しさせてあげるといふプレイの見方を持ちなさい、現象だけでファウルにしないように」との指摘を受けました。そういえば、たしかに触れ合いは起こってはいるが、もう少し我慢してあげれば次のプレイの展開が予測されそうなシーンがいくつかあったと思います。これは今後の課題として心掛けたいと思います。

それと、途中相手審判の動きが止まり出して、少しカバー気味に相手エリアを見てしまったことです。タイムが止まっている間にもう少し動くようにと指示を出したのですが、やはり動きが少なく、ついにひとつ吹き込んでしまいました。こちらに向かってくるプレイで吹いてもおかしくはなく、ファウル自体にも自信があったのですが、相手審判も見えていてノーコールだったのでやはり吹くべきではなかったと思いながらTOにレポートしました。やはりこのことはミーティング時も指摘され、「相手エリアを見ているから自分のエリアがおろそかになっていると見られるのが怖い」ということでした。今後気をつけなければいけません。

細かい点はまだありましたが、先日指摘されたスローイン時の気配りやジェスチャーなども大きく丁寧にすることを心がけ、大きなミスもなく全体的にはまずまずだったと思います。

[総評]

今回は九州のチームが決勝にたくさん残ったこと、青野ブロック審判長の後押しや佐賀インターハイの開催などいろんな要素にも恵まれたかもしれませんが、やはりいろんな講習会でのたくさんの方々のアドバイスのおかげで、決勝の主審という貴重な経験をさせていただき感謝しています。本当にありがとうございました。

同行した西村君も他県の方からたくさんアドバイスをもらったり交流を深めたようで、かなりいい刺激になったのではないかと思います。こういう経験は若手レフリーにもっとしてもらいたいと痛感しました。そういう後進のためにも今後はもっと実力をつけてコンスタントに準決勝以上の割り当てをいただくことを新たな目標としたいです。

また兵庫の島田近畿ブロック長(4月から2A)からも「夏の佐賀インターハイでもがんばってくれ」とお声を掛けていただきとても励みになり、モチベーションが上がってきました。オン・ザ・コートに立てるようにがんばります。

今回は今まで参加した中で一番有意義だったと思いますが、これからもっとがんばりますので、今後もぜひ参加させてください。よろしくお願いします。